

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成23年5月号

学童保育というところ

新学期を迎え1年生もいよいよ給食が始まりました。今年度より、1年生も毎日5限目があるということで、その疲れ具合も心配です。学童保育の場が第二の学校ではなく、第二のおうちとなるよう、のしろ児童館の職員一同、今年度も努力します。帰ってきて、ほっとできる場、宿題さえしたら、あとはおいしいおやつがあり、遊び呆けることができる・・・そんな場にしたいのです。学校でできない、作物を育てる体験や、お家でできないクッキングの体験もさせたいのです。職員は子どもたちがのびのび遊べるよう見守ります。まだ友達とつながれない子をさりげなく遊びに誘い、トラブルやいじめ、学校からの重い問題を抱えてくる子に寄り添います。必要がある時には学校の担任の先生とも話し合います。

今年度より、学童保育が生涯学習課の管轄となりましたが学童保育の場が、子どもにとって居心地のよい、第二のおうちをめざすという方向に変更があってはなりません。そうでなければ子どもはどこでほっとするのでしょうか？

一日、一所懸命がんばって過ごしてきた子ども達です。職員はそのことを忘れてはいけません。職員は自分のやりたいことをやるのではなく、この子どもたちがどうしたらほっとでき、のびのびできるか、子どもの気持ちに添って、学童の場を見直していかなければいけません。まして今年度より、一年生といえども5限、という過酷な学校生活のなかで、精一杯がんばってくる子ども達であることを忘れてはいけないと思います。

小松の学童の中には、そのような子どもの現実に目をやらず、様々な行事や班活動で子どもを追いまくり、学校以外の学童の宿題までである学童や、消しゴムを学校に忘れたらおやつをあげないという学童や、そうかと思えばゲーム機の持ち込みがOKという学童もあります。学童のあり方について、まだまだみんなで勉強して、考えていかなければいけません。親が休みの土曜日に、学童の遠足や、いろいろな行事をするというのはどうなのでしょう？日頃共働きで忙しく、親子で触れ合う機会が少ない子ども達を、無理に土曜日行事をして引き離すのは方向性として間違っていないのでしょうか？たくさんのことをするのがいい学童ではない、それは自己満足にすぎないのではないか？学童の職員はよく考えなければいけません。

今年は3月11日の大震災で、日本中がどうしたらいいか戸惑い、考えているところです。ありふれた日常がいかに大切でかけがえのないものであるか、私達もそのことを忘れず、今日の前にいる、日本の未来を託していく子ども達である彼らが、希望をもって、自分に自信をもって生きていけるよう、見守り、手助けをし、私達の仕事を、自分の持ち場をしっかりと守っていきたく思います。